

## 令和5年度 第2回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定・推進協議会 議事録

開催日時：令和5年12月21日 10時～12時

出席者：別紙のとおり

(鈴木主事)

ただいまから令和5年度第2回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定推進協議会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本協議会は、八千代市審議会の会議の公開に関する要領の規定に基づき、会議を公開するとともに、会議録作成のため、会議の状況を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。なお、傍聴の希望の方はいらっしゃいませんでした。

本日ご欠席の委員のご報告をさせていただきます。中村委員、五箇委員、石神委員、保佐委員より、ご欠席のご連絡をいただいております。また、渡部委員が少し遅れるとのことです。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

配付資料確認及びマイク使用方法説明（省略）

本日の協議内容についてご説明いたします。

初めに、市民アンケート、関係団体等アンケート、9月から11月に開催しました地域懇談会について地域福祉シンポジウムについて、その他になっております。

それでは議事に入らせていただきます。山下会長、進行をよろしく願いいたします。

(山下会長)

おはようございます。それでは議題に入らせていただきます議題（1）市民アンケートについて事務局より説明をお願いします。

(小野主査)

市民アンケートの調査概要を説明いたします。調査対象は16歳以上の市民を地区ごとに無作為により3,000人を抽出し、調査方法は郵送法です。調査期間は10/20～11/15ではありますが、郵送での期間等を考慮し11/20まで届いた分までを集計していただいております。回収票は1,200票（回収率40%）この内、二次元コード集計数は102票です。調査内容は回答者の属性、日常の外出の状況について、悩み事や相談先について、身近な人との関わりについて、社会的な課題について、福祉サービスについて、成年後見制度について、ボランティア活動について、災害発生時の助け合い活動について、地域福祉についてです。

回答者属性については1ページをご覧ください。問1回答者はやや女性の回答率が高く、5割を超えており、問2の年齢では50歳～59歳の割合が17.9%、70～74歳と75～79歳の70代で見ると、19.9%となっております。問3地区ごとの回答者は、「大和田地域」が最も多く25.7%次いで、「高津・緑が丘地域」が22.3%を占めております。反面、「睦地域」が3.2%、「阿蘇地域」が4.4%と低い状況となっております。

次に2ページです。問4「身近な地域」のイメージとしては、日常生活圏域であります、「7つの地域」との回答がもっと多く26.8%を占め、次いで、「小・中学校区」は23.1%となっております。問5通算での八千代市在住期間については、「30年以上」との回答が44.1%と最

も多く、八千代市に長く住んでいる方が多く、10年未満の新住民の割合は約2割程度を占めており、地域懇談会での課題で上げられているとおり、新旧住民の交流については地域福祉活動を活発化する上でも重要な課題であるといえます。問6世帯構成については、八千代市においても核家族化が進んでおり、「2世代世帯」が概ね5割を占め、「夫婦のみ世帯」が3割を占めている状況であります。また、「ひとり世帯」が13.1%と1割以上を占めており、今後、年齢とのクロス集計により高齢者の「ひとり世帯」が明確になると思われますが、高齢者のひとり世帯への対策については、重要な課題の一つといえます。

次に3ページです。問7家族の状況については、「介護を必要とする方」は4.9%となっておりますが、「乳児（1歳未満）」や「小学校入学前の幼児」といった、親が保育しなければならない状態の方も（8.7%）となっております。また、「病気や障害のある方」、「ひきこもり等の状態にある方」、「75歳以上の方」の同居の方は、将来的に人の手助けが必要となる可能性があることも考慮していく必要があります。問8職業については、「フルタイム就労」が33.6%で、次いで「年金生活者」が20.9%と多い割合となっております。問9情報を得るうえでの情報元は、「テレビ、ラジオ」が83.9%と最も多く、次いで、「インターネット検索」の68.2%となっております。近年のデジタル化による「SNS」や「情報系アプリ」の割合も多くなっております。反面、「情報を十分得られていない」と回答された方が2.3%、どのような状況で十分に得られていないかについては不明ではありますが、身近な地域での見守りやコミュニケーションなどにより、解消していく必要があると思われます。

次に4ページです。外出の状況についてです。問10の日常生活の中で外出しない方の理由としては、「身体状況等から外出が困難」との回答が多く、約5割を占めております。また、10-1の理由として「外出意欲が湧かない」との回答が34.7%と多く、ひきこもらないための支援等について検討する必要があると感じました。

次に6ページです。③悩みごとや福祉に関する相談先についてです。問13悩みごとや福祉に関する相談先については、「今は困りごとはない」との回答が7割を占めておりますが、「困りごとがあるが、相談先がわからない」といった回答者が1割以上を占めております。このことは、地域福祉の観点からは、必要な人に情報が伝わりきれていない現状があることから、情報発信に関わる対策の重要性を確認することができました。また、問14相談先については、「家族、親戚」の割合が多く、「専門機関」の割合が2.3%と低い状況から相談窓口や各種専門家の活用状況が低いことが確認できました。

次に7ページです。問15の相談先の認知度については、「市保健センター」の割合が高く42.1%でありました。令和2年からのコロナ禍において、接種券などの発送業務などで保健センターの認知度が高くなっていると考えられます。反面、「社福 後見支援センター」、「社福 暮らしサポートチームふらっと」、「社福 ボランティア・市民活動推進センター」、「精神保健福祉センター」、「中核地域生活支援センター」については、5%以下と認知度低い状況が確認できました。さらに、「知っているものはない」との回答が約2割占めていることが確認できました。

次に8ページです。④ 身近な人との関わりについて問16身近な人とのつきあい方については、相談できる人がいる方は5割以上を占めており、反面、「顔は知っているが、話したことがない」、「ほとんど顔もしらない」といったコミュニケーションをとっていない方の割合が5.2%であることが確認できました。また、問17今後のつきあい方については、相談できるつきあい方をしたいと思っている人の割合は約6割を占めている反面、「近所づきあいは極力したくない」との回答が6.6%いることが確認できました。

次に9ページです。⑤ 社会的な課題について問19の社会的孤立に対しできることについて

は、「積極的に地域の人で挨拶や声を掛け合うようにする」や「変わった様子がないか、日ごろからの気にかける」といった、日常でコミュニケーションが重要であることが確認できました。反面、「わからない」との回答が約2割を占めており、市民の意識の醸成や行動を起こすための情報発信のため、より一層、地域福祉行動計画の策定の重要性が明らかになりました。

次に10ページです。問21の虐待に対する対応については、「行政の相談機関に連絡する」、「警察に通報する」、「身近な人などに相談する」といった割合が高いが、「気になるが、何もできない」や「関わりたくない」との回答や、次の11ページ問23の福祉サービスへの関心について「どれも関心がない」との割合が約4割を占めていることを踏まえると、身近な地域で支え合うことの重要性について、地域福祉計画・行動計画に反映していく必要があると感じました

次に12ページです。⑥成年後見制度について問24の成年後見制度の認知度については、制度の内容を知らないが約6割以上を占めていることから、問25の家族以外の成年後見人制度の利用したい意向の割合が5%に満たない状況が確認できました。このことは、より一層、成年後見人制度についての理解と周知を図っていく必要があると思われます。

次に13ページです。⑦ボランティアや地域活動について問26のボランティア活動や地域活用への興味は5割程度あるものの、問26-2では「仕事などで忙しく、時間がない」や「活動内容や参加する方法がわからない」といった理由から、活動に参加している割合が4割以下程度にとどまっている状況が確認できました。

次に15ページです。⑧災害発生時における助け合い活動について、問27の地域防災活動の参加については、「参加している」との回答はわずか1割程度にとどまっていることが確認できました。また、「防災活動は実施されていない」や「防災活動が実施されているかわからない」が約3割占めていることを踏まえると、防災対策に対する支援については、さらなる検討していく必要があることが確認できました。

次の16ページです⑨地域福祉について問29地域福祉の必要性については、「ある程度必要だと思う」を含めると、ほとんどの市民が必要性を感じていることが確認はできました。問31の地域の支え合い活動において有効と思われることは、「気軽に相談できる身近地域の相談機関」が最も多く43.6%の方が有効であると感じていることが確認でき、相談体制の整備の重要性が明らかとなりました。次いで、3割の市民が有効と思われる活動として、「活動のための組織や団体づくり」、「ボランティア体験などのきっかけづくり」、「様々な人が交流できる拠点としての活動場所」となっており、活動団体への支援、活動する上でのきっかけづくりやその活動場所の整備などの取組の重要性が確認できました。

(山下会長)

ただいまの報告で、ご質問やご意見ありますか。

(渡部委員)

八千代市長寿会連合会の渡部です。アンケート結果について大変興味を持って考えさせられました。問15の設問で悩みごとや福祉に関する相談先に長寿会連合会がないと思いました。相談窓口ではないですが、緑が丘長寿会には273名の会員がいますが、昨日も電話がありまして、高津の76歳の方の妻が亡くなって一人暮らしをされており、やっと人と会えることができるようになり、長寿会に入ることが出来てありがたいという声もあります。高津団地の会員が中心となって安否確認を行っており、電話で連絡を取り合っています。今朝、私のところに電話があり、女性の方から美談だと思うので新聞などに投稿したいということで話を聞くと、90代

の高齢者の妻が亡くなって、一人暮らしになり、娘さんは市外にいる。息子の妻がお義父さんの面倒を見るのであれば離婚すると言われた。結果として息子がお父さんの面倒を見ることになったとのこと。これは美談じゃないですよと家族の崩壊ですよと答え、なぜ、家族と一緒に住んでないのか考えないといけないと思うと伝えました。こういう話はありふれており、福祉の面から長寿会は本当に大事な会だと思います。各地区の老人クラブをまわって、面談や会合に出たりしていますが、抱えている問題が多々あるので、長寿会としてもしっかり対応していきたいと思っています。

(山下会長)

ありがとうございました。身近な相談窓口として長寿会やもっと小さな会が機能していると思います。他にご意見ありますか。

(吉野委員)

集計大変だったと思います。ありがとうございました。いくつかクロス集計した方が良いと思ひまして、一人世帯の構成のところで、年齢構成、例えば学生やご高齢の方もいるかと思ひますので、年齢構成等もわかったらもっと良いと思ひます。保健センターの相談先が42%となっており、保健センターは子どもの事なので、回答している方の年齢構成、高齢者ではないと思ひのですが、年齢構成が必要だと思ひます。地区別について、団地が多い地区がありますが、外国人がアンケートを答える際に日本語でアンケートを出していると思ひのですが、答えられていない方がいると思ひるので、母国語のアンケートが必要だと思ひました。同居家族について該当しないという方が多いですが、意味がわからないので、中身が分かるものがあると良いと思ひました。以上4点です。

(小野主査)

同居家族に該当しないと回答した方は20歳から50歳くらいのご夫婦のみ世帯や大学生の一人暮らしなどが含まれているかと思ひます。

(山下会長)

詳細はデータをつきあわせないといけないと思ひますが、一人世帯が13.1%、夫婦のみ世帯が30.4%なので、43.5%。36%が該当しないとのことなので、多くはこの項目に入る気がします。さほど気にしなくてもよいかと思ひます。

(八巻委員)

回答の男女比についてですが、アンケートは無作為抽出と聞いていますが、送付した際の男女比と年齢構成や地区の割合について教えてください。大和田地域に多く送ってれば当然回答が多くなると思ひれます。また、悩みごとや福祉に関する相談先について、7割の方が困っていないという状況で、相談先を知っていますか。と聞いても相談先を知らないのは当たり前だと思ひますので、これを高める必要があるのでしょうか。

(鈴木主任保健師)

男女比についてですが、アンケートは市民を対象に3,000人に発送し、男性1,480人、女性1,520人となっており、ほぼ同じ割合のため、男女比の差は回答してきた方の割合となります。地区については人口比の割合で送付している為、阿蘇地区、睦地区などの回答者は少なくなり

ます。

(八巻委員)

注釈がないと阿蘇地区は全然回答していないという見方になり、阿蘇、睦地区の方は地域福祉に関心がないと捉えられると思います。地区別の回答率を出しておかないと人口が少ないところの対象が少ないのは当たり前なので、地域福祉に無関心に見えてしまいます。

(山下会長)

これは中間報告なので、本報告の時には送付数や地区別の送付割合は出せると思います。問3の扱いには配慮したほうがよいかと思います。問15の身近な相談窓口に関しては、悩みがある方に対してアンケートが届いていれば、繋ぎや効果があると思うのですが、一般市民によくわからないけど、相談機関がたくさんあると捉えればよいと思いますので、この数字を上げていくということは論点としなくて良いと思います。保健センター42.1%子どもの事もしくは、新型コロナウイルスの予防接種の関係が知名度に影響を受けている可能性はあると思います。

(福田委員)

2点ありまして、問20の見聞きした虐待についてという回答ですが、87%の方が特にない、1割の方が見聞きしたことがある、問21の回答で虐待を見聞きした時に⑥気になるが、何もできないという回答が12%あるので、100人いたら、1人か2人が見過ごされているという大きい問題だと思います。気になるが、何もできないという方が動きやすそうな打開策が必要だと思っていて、行政に相談したり、警察に通報したりしている人がなぜできているのか、ということがわかれば、何もできない人をできるようにするのが大切だと思いました。

もう1点、防災のところで、問27で防災活動に参加していない人が防災活動を実施されていないのに参加していないのか、地域で防災活動を思い浮かべると小学校とかで防災活動をやっているくらいしかイメージできないです。例えば自治会などで防災活動があれば良いですが、マンションでは防災活動はやっていないことが多いと思うので、参加していないという方がどういう風に参加していくのか、年齢、地区でクロス集計していただいて、少しでも防災活動の参加に繋がっていければいいと思います。

(小野主査)

防災活動については11月に小学校3か所で総合防災訓練が実施しており、ホームページで周知はしていると思いますが、もう少し、広げていきたいと思います。

(八巻委員)

問20の虐待の件ですが、期間を定めていないので、30年前に見たのも入ると思います。過去1年とかにしないと、虐待の見聞きする経験が多くなると思いました。

(山下会長)

子どもの虐待について7.2%を1,200人にかけて、20万人に直すと14,700人が虐待について見聞きしたことがあるという回答になります。そんなに虐待を見聞きしているのか、虐待についてよく知っているのと2つの見方に変ってきます。この数値を前向きにとらえるか、課題としてとらえるか、議論することも重要なことです。過去1年にすると課題に向き合っているのがわかって、子ども部局との調査とつぎあわせて庁内の横とのつながりで、地域福祉計画で子どもの課題をどこまで向き合うのかが課題となっているので、そこは留意していただきたいで

す。

(八巻委員)

いじめ問題の件数はここ5年くらいで増加傾向にあり、いじめの法律が変わって、重大ないじめしか認知されていなかったものが、今はちょっとした嫌だと思ったというものが、いじめと認知されて、全国、八千代市の調査で増えているので、いじめが増えているというよりは認知件数が増えているためです。虐待についても同様です。

(吉垣委員)

虐待についてどの程度をもって虐待とするか、地域のつながりで変わってくると思います、虐待だと判断できる線引きがあればいいですが、どうすればいいのか、難しい問題だと思いました。

(山下会長)

吉垣委員の意見も重要で、市民が虐待と思う状況と児童相談所が48時間以内に訪問して虐待と判断することを学びあいしていく、虐待じゃないかもしれないけど、市民は相談機関に連絡をするということが大事です。

(吉野委員)

事業所の虐待について子どもの場合は類型も決まっていて、通報先があり、報告書もあります。家庭内の虐待に関しては、事業所が発見した場合に17時以降は市役所も動けないので、児童相談所も難しく、警察に通報します。家庭内の虐待は小さい子にお母さんが怒鳴っていて、これが虐待なんじゃないかなという時に通報先が、即時発見がなされないので、判断基準が市民の方には示されていません。虐待防止委員会は法人の中で設置されているので、そこに対して相談があります。市民に対してこういうことが虐待ですよと啓発をしっかりとやっておかないと見過ごして、命を落としてしまう可能性があります。虐待に対して事業所と市民と児童相談所とギャップがあると感じます。このアンケートでそれが読み取れると良いと思います。

(山下会長)

2月に本報告がある予定なので、アンケートの結果の分析が重要となってきます。問22の示し方で生きづらさを感じている74名の方が、どういう生きづらさを感じているのか、パーセンテージで見るとより、20万人にかけてみて人数を出して、重層的支援体制整備事業で進めていくのか、担い手側の課題として受け止めるのか、一方で市民は虐待の現状を包括的に理解していく必要があります。男女比、年齢構成はうまく出ています。問4身近な地域のイメージでは地域福祉計画では7つの圏域、地域福祉活動計画では八千代市社会福祉協議会の21支会を基本としており、前は複数回答が可能だったので、自治会がトップでしたが、結果がばらけたことで、地域福祉推進についてどう考えるか議論が必要です。虐待、子どもの事であればもっと狭い範囲の地域が必要です。八千代市の日常生活圏域は割り返すと3万人くらいです。3万人は一つの小さな町くらいで地域がまとまるのは難しく、日常生活圏域を増やして、地域包括支援センターを増やすと補助金が増えるので、基本、7つの圏域を進めるにしても、まだ議論の余地がありそうです。他にご意見ありますか。次の議題に進めます。

(槌田主事)

社会福祉協議会の槌田と申します。関係団体等アンケートの中間報告の説明をいたします。皆様からアンケートの調査票についてご意見ありがとうございました。アンケートは10月下旬に発送し、回答期限は11月24日までです。市内の障害者、高齢者、子ども分野の福祉施設、NPO法人、ボランティア活動推進センターに登録しているボランティアグループ、市民活動団体、社会福祉協議会の支会、郵便局を対象に365団体を郵送または手渡しにて発送し、回収しました。調査結果の集計についてはコンサルに依頼し、中間報告として136団体をまとめています。次回の協議会で分析報告を行う予定です。設問ごとにご報告いたします。

活動地域は八千代市全域が65.4%となっており、各地区についてはご覧の通りです。活動の周知啓発については会員・知り合いを通じて口コミ51.5%、ホームページやSNSを活用が50.7%と高くなっております。

2ページです。問1活動の対象者・分野、今後新たに組みたいものについては、現在行っているものは福祉が44.9%、まちづくりや地域での交流が39.7%、高齢者や障害者などの介護を支援する活動37.5%です。新たに組みたいものについては、まちづくりや地域での交流13.2%、社会教育や生涯学習13.2%、趣味や特技を活かしたボランティア13.2%、災害時に支援が必要な人を支える活動13.2%です。調査をしている団体に福祉施設が多く、偏りがあります。

3ページです。問2現在、交流や連携している団体・機関はありますか、また、今後、新たに交流や連携したいと思う団体・機関はありますかという設問に対してですが、現在連携している団体では社会福祉協議会が53.7%、行政機関が49.3%、福祉施設44.1%です。今後連携したいと思う団体としては、高等学校が17.6%、保育園・幼稚園等は16.9%、小学校・中学校は16.2%です。子どもや学校関係と連携したいという意見が多く挙げられています。

4ページです。問3地域の福祉を充実するために、優先的に取り組むべきことはどのようなことだと思いますか、については、福祉に関する相談窓口の充実が39.7%、高齢者・障害者などの介護や生活支援が37.5%です。適切な支援が受けられるように相談窓口の充実があげられます。地域住民のつながりづくり25%、支援が必要な人を発見する取り組み25%、地域での支えあい活動22.1%、福祉に関わる団体や機関のネットワーク22.1%です。地域のつながりやネットワークづくりの重要性がうかがえます。

5ページです。問6地域共生社会の実現に向けた包括的な相談支援の仕組みを充実する上で、優先的に取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。については、身近なところで相談できるよう、地域の活動者や事業所等の相談を充実が49.3%、相談支援に結び付けるような関係者のネットワークを充実が47.1%となっております。相談支援の充実とネットワークづくりの重要性が見受けられます。

6ページです。問7地域の人が日常生活で困っていることに対し、貴団体は対応することができますかについては、対応している項目で介助者がおらず独居している高齢者や障害者が33.8%、一人暮らしで不安や心細い思いをしているが28.7%、障害や高齢などのために必要な情報が届かないが28.7%です。高齢者・障害者、一人暮らしの方への対応している団体が多くなっています。今後対応したいものとしては、障害や高齢などのために必要な情報が届かないが21.3%、虐待や暴力を受けている16.9%、ひきこもりの状況になっている14.7%、社会的に孤立している方への支援を行いたいと考えている団体が多いことが見受けられます。

7ページです。問8地域の支えあいに関して本市の状況をどのように感じますかに対して、地域活動を担っている人の負担が大きい41.2%、地域福祉を知らない、無関心な住民が多い32.4%、地域住民や地域の団体が積極的に活動しているが29.4%です。地域活動を積極的に行

っているものの担い手の負担が大きくなっていることが考えられます。また、地域福祉をわがごととして捉える意識が低いことが見受けられ、課題としても挙げられます。問9本市において、地域の課題や不足していると思うのは、どのようなことですかについては、世代間交流が少ない48.5%、地域の中に気軽に集まれる場所が少ない47.1%です。世代を超えた人と人とのつながりや集える場づくりの必要性が見受けられます。

8ページ問10活動する上で困りごとや課題はありますかでは、メンバーが高齢化してきている59.6%、新しいメンバーが入らない47.1%、リーダーや後継者が育たない35.3%です。担い手の不足や育成が大きな課題となっております。

9ページ。問11様々な関係機関や団体などが連携して「地域共生社会」を実現していくために必要と考えられる取り組みについて、活動している地域では、どの程度できていると思えますか、についてはできているで、地域の支えあい4.4%、サービスや活動の開発7.4%です。地域の支えあい活動や連携が課題となっております。

12ページ。問12地域の支え合い活動として、有効だと思うものはどれですか、気軽に相談できる身近な地域の相談支援65.4%、費用の支援・援助59.6%、様々な人が交流できる拠点としての活動場所58.1%です。身近な相談窓口の充実や地域の中でみんなが集える場所や拠点の重要性が見受けられます。

10ページ。問13貴団体が地域の中で実施していることはありますか、また、今後実施したいことはありますか、については、実施していることについて、他団体との連携や話し合いへの参加が57.4%、地域活動や他団体の紹介などを掲載する広報やPR活動39.7%、専門的な知識やノウハウの提供35.3%です。他団体との連携を意識している団体が見受けられます。今回の関係団体等アンケートから重点的に取り組む視点や課題が見えてきたと思います。次回の会議で改めて分析したアンケート結果をお伝えしたいと思います。

(山下会長)

続きまして、地域懇談会についてお願いします。

(槌田主事)

令和5年度地域福祉計画及び地域福祉活動計画地域懇談会の結果報告書をご覧ください。開催の目的は圏域ごとに生活課題や福祉課題を掘り起こし、課題を共有し、解決策を地域の皆さんで話し合う懇談会を実施することにより、地域住民主体の地域福祉の推進を図ることを目的としています。開催の日時は表をご覧ください。参加者は支会の福祉委員、民生委員・児童委員、福祉活動団体、福祉事業所、長寿会、ボランティア、地域福祉に興味のある方などが参加しました。実施した内容は地域福祉とは何かを確認し、地域様々な課題をわがごととして考え、市民や福祉活動団体、関係機関、社会福祉協議会、行政それぞれが主体的に取り組み、またお互いが連携し協働で取り組むことで、地域共生社会の実現を目指していくことを共有しました。そのうえで、地域ごとに現在の地域の現状や課題を共有し、課題解決のために何ができるか意見を出し合いました。方法は、参加者が班になり、テーマごとにKJ法を用いてワークを行いました。タイムスケジュールについては表のとおりです。また、当日の懇談会の様子につきましては、写真で掲載しています。各地域の結果については、KJ法で出た意見を羅列しています。地域懇談会の結果をコンサルにまとめていただきました。

地域懇談会の結果とそこから見えてくる市域の課題をご覧ください。地域とのつながりについて、世代間交流ができていない、若い世代が少ない、自治会の未加入など同様の意見があげられ、外国人のマナーについての意見は見られず、外国人との隔たりなどもなくなっている状

況がみられました。その解決策として、多世代が交流できる場づくり、地域交流イベントの開催、情報発信の工夫、外国人との交流、お互いの歩み寄りなどの意見がでました。

人とのつながりについて、近所付き合いの希薄化や孤立、老々介護、認知症の増加、8050問題の増加、ひきこもり、気軽に集まれる場所がないなどがあげられました。

また、祭りなどの行事については、高齢者のみの参加となり、地域によっては行事が行えない状況が発生していることがうかがえました。その解決策として、地域の見守り活動や身近に集まれる場づくり、要支援者の把握、認知症への理解、学生の力を借りる、旧住民と新住民との交流や、若い世代を増やすこと、自治会の再構築などの意見がでました。移動について、近くに店や病院がなく買い物や通院に困る、車がないと生活が難しい、利用できる公共交通機関が近くにない、道路や歩道が狭くベビーカーや車イスの利用が不便、舗装が悪いなどがあげられました。なお、交通の便については、地域格差がみられ、睦地域、阿蘇地域においては、特に買い物に不便を感じている人が多くみられました。その解決策として、移動店舗、送迎バスや市内循環バスの拡大や復活、道路の整備、買い物難民に対する支援などの意見がでました。

空き家について、空き家、空き店舗の数の増加、防犯や防災、庭木の管理、空き教室の活用などがあげられました。その解決策として、地域の見回り、空き家や空き店舗利活用による居場所づくりや交流イベント開催へ活用するなどの意見がでました。

また、市民等による空き家に関する市への情報提供といった対策の意見も得られました。

災害については、近くに避難所がない、避難所が少ない、避難所に行けない、冠水の心配がある、防災無線が聞き取りづらい（情報が得にくい）などがあげられました。その解決策として、普段から近所との声掛け、要配慮者の把握、防災意識の向上、防災訓練の実施、災害時を想定した交流の場の創出などの意見がでました。

防犯については、夜になると人通りが少ない、夜が暗い（街灯が少ない）、駅前の治安が悪いなどの意見があげられました。その解決策としては、共生できる活動、防犯パトロール（世代交代）、暗い箇所への街灯の設置などの意見が出ました。

子どもについて、子どもが少ない、不登校の子ども、子どもの遊び場や交流の場、保育園不足、子ども会がない、安全な通学路の確保、子どもたちが遊んでいるとうるさいという人がいる、貧困家庭の子ども支援などがあげられました。その解決策として、若い世代を増やすための対策、サークル活動や親子参加イベントの開催、学校にいけない子の居場所づくり、保育施設の整備、貧困家庭への支援などの意見がでました。

高齢者について、一人暮らし高齢者の増加、認知症の方の増加、買い物やゴミ出しなど生活支援の必要性、空き家の増加、支援するボランティア等、地域活動に参加する人が少ないなどがあげられました。その解決策として、長寿会に積極的な入会、移動販売車の数を増加、地域の見守りや交流の場、助け合いの有償ボランティア、支援する担い手の育成、発掘などの意見がでました。

懇談会の生の声を聴かせていただきました。ただ、懇談会の声だけがすべてではないと思いますので、市民アンケート、関係団体等アンケートの意見を参考にしながら、計画策定を進めていきたいと思えます。

（山下会長）

2つまとめて発表いただきました。質疑応答はありますか。活動団体等アンケートで子どものグループに連携を強めたいという意見がありましたが、八巻委員できそうでしょうか。

(八巻委員)

私、子ども会もやっています。実は八千代市が文科省コミュニティスクールの推進をやっています、今年度より、大和田小学校、高津地区で立ち上がっています。コミュニティスクールは学校を中心とした地域づくりを行っていくので、連携が取れば、うまくできると思います。社会教育という部門で、社会福祉主事の任用資格が一般にも開放されて社会教育主事という称号が与えられます。地域福祉、社会福祉の連携が出来れば、学校とのコミュニケーションが取れる方を地区に配置できると思います。

(山下会長)

ありがとうございました。新宿区でスクールコーディネーターの制度があり、校長先生の意向を受けて、地域福祉の導入に力を入れています。コミュニティスクールや社会教育の生涯学習の新機軸、狭い意味の福祉ではなく、地域づくりや子どもの課題を獲得していく時に可能性はあるので、地域福祉計画としては意識していく内容とデータに現れてきます。

(八巻委員)

論点がずれるかもしれませんが、スクールソーシャルワーカーという制度があり、実はスクールソーシャルワーカーは何人いるがご存知でしょうか。八千代市では一人しかいません。地域からスクールソーシャルワーカーを置いた方がいいと言ってもらえると思います。

(犬塚委員)

高津支会の会長をやっている犬塚です。社会福祉協議会の福祉教育に協力していますが、1年間に小中学校数校の車いす体験や白杖体験、避難所運営ゲームなどの福祉教育に参加しておりますが、高津支会が3年前から県の福祉教育パッケージというもので、地域の小中学校、八千代東高校などが対象となっており、八千代東高校に福祉委員が避難所運営ゲームを行いました。今年度も1月に2回行う予定で、私は縦のつながりが良いと思っていて、八千代東高校のボランティアクラブの生徒さんたちが高津小学校の避難所運営ゲームに参加して、大人、高校生、小学生の縦のつながりができて、こういう活動をもっと広めていったらいいと思いました。

(山下会長)

ありがとうございました。とてもいい事例ですね。スクールソーシャルワーカーについて行政に増やしてくださいと訴える委員会ではないので、議決を取るわけではないです。スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの理解がありません。アンケート調査をみても生活困窮や貧困に対する理解が低いので、行政が本腰を入れないとどう捉えるかは課題意識を作った方が良くもありません。スクールカウンセラーは心の問題ですが、スクールソーシャルワーカーは経済的な手当もしていくことを期待されているので、八千代市の学校の先生が課題に対して奔走しているのか、差があると思いますが、児童福祉の子どもの体系の中で組み立てていく、地域福祉計画の中で後押しする、地域福祉計画は子どもの貧困、生活の安全安心についての調査は必要だなと思います。一方で、貧困の状況を見つけてなんとかしようという発想を直球でやるだけではなく、災害のゲームをしながら、理解していくのは楽しく、学べるので、縦のつながりから子どもたちの主体的な活動が理解に繋がるかもしれません。他にご意見ございますか。地域懇談会の意見を集約していただいたのですが、地域福祉活動計画にどのように生かされるのか、もう少し整理した方がよいと思うので、今回は荒く書いていただいたものとして、ご意見あれば、事務局にお伝えください。それぞれ、普段の話の中で展開されれば

いいと思います。地区懇談会の結果報告書で各7つの地域でそれぞれの地域の良いところ、良くしたいところ、みんなでできそうなところを地域ごとにあげて頂いているので、地域福祉活動計画にどのように活かされて、どこが活かされていないのか、分析をする方が、市域の課題を突き詰めるよりはよいかと思った印象です。5ページの阿蘇地域で近隣に精神科病院がいっぱいという意見が出ていますが、住民として精神科病院があると受け止めている一方で、そういう地域性、土地が裕福にある、建てやすい、背景があると思うので、まとめかたを社会福祉協議会がもうひと踏ん張りするか、意見を取りまとめたことに意味があるので、地域懇談会としてまとめるだけじゃなくて、地域福祉活動計画に反映させていただきたいと思います。他にご意見ございますか。

(吉垣委員)

私も地域懇談会に参加しましたが、住民からの意見を参考にしてもらい、これからの八千代市をどのようにしていくのか考えて頂きたいと思いました。

(山下会長)

ありがとうございました。例えば、18ページの新川をセーヌ川のようにしてほしいという意見がありますが、八千代市がやるのではなく、そこに人が来て、物が売れて、物を作って、人が集まって、移動の問題をどうすればいいのか、そこに繋がっていくと思います。喫緊の課題が出ているのであれば、そこをとにかく検討していくことと、市域の課題を作り込めるとよろしいかと思います。他にご意見ございますか。

(犬塚委員)

どこの地域をみても交通の便が難しいという意見がありますが、市としてはどのようにお考えでしょうか。

(山下会長)

他の部局のことになるとと思いますが、教えていただければと思います。

(春田課長)

長寿支援課や障害者支援課では外出の困難の方にタクシー券を配布しておりまして、コミュニティバスのことですと都市整備部の所管になりますが、地域公共交通会議を開催して検討を重ねているところです。

(犬塚委員)

アンケートに回答した方は改善してもらえと思って回答していると思います。高齢者は免許証を返納するようになっていながら、歩くだけでも道路が酷いので、自転車に乗れば転ぶし、ヘルメットを被れと言うよりは、道路を整備していただきたいです。ふれあい大学にも来られないという方が多いので、よその部署の方と協議していただきたいと思います。

(山下会長)

移動の問題は全国的な問題となっており、行政として行える部分と市民でできる部分がミックスして考えるので、難しい課題であります。タクシー運転手やバスの運転手がなどの担い手が不足しており、無人自動車などは先の話だと思うので、ないないの話をするのも大事なので

すが、地域福祉計画は地域住民計画に基づくので、なんとかしてくださいと意見を言うのか、移動の問題を市民の中でどうにかしようと、八千代市全体では無理だけど、この地区ではこういう風にやっ払いこう、少なくとも子どもの送迎はしっかりしよう、一つ一つの課題を検討できる資料作りが地域福祉の守備範囲だと思います。理想は道路を整備して、コミュニティバスを導入し、民間のバスを走らせてとなると思いますが、政治的な問題や経営の問題になってくるので、その構図に飲み込まれないように高齢者だけじゃない、子どもも含めて、検討してみたいところではあります。そういう地区があるかってことです。行政にやっ払いくださいと言うことも大事なことになるので、ご意見ありがとうございます。

(八巻委員)

縦割りなので、他課の事はわからないという回答は辞めて頂きたい。商工会だから分かりません、福祉の事だから分かりませんと言っ払いいいのですか。それっ払い隣の課は遠いのですか。1時間、2時間かかりますか。分かりませんと言っ払い訳にしないでもらいたい。

(山下会長)

2月の会議の際にも情報提供をいただきながら、進めていく感じだと思います。佐倉市では都市整備計画委員会では、人が住んでいる集落にコンパクト化して病院や老人ホーム、小学校などの資源を集中させて、移送問題を解決していく、地域福祉はその観点はあまりないので、今住んでいるところで、暮らし続けたい、どうやっ払いできる限りできるか、その一つとして住み替えが大事ですが、都市計画したところに人が移り住みましようというのはちょっと違うかなと思います。移送、就労、子どもの問題は密接に結びついているので、隣の部署じゃないだろうということにはなります。八千代市は来年から重層的支援体制整備準備事業を始めるということなので、産業や教育分野の質問も出てくるので、ますます敷居の高く、八巻委員の意見を叱咤激励だと思っ払いいただいて、移動に関しては生活支援体制整備事業で議論があるはずなので、私たちもいずれの問題として注目していると思います。

(吉野委員)

地域懇談会ですが、参加者は少なかったですが、素敵だったと思います。地域の特色と強化点、地域のデータが気になるので、どれぐらい人口や年齢構成、児童の割合が必要だと思います。共通した課題、地域の特色の課題を一覧になっているととてもわかりやすいと思っ払いました。地域福祉計画は市民が作り上げていくものかもしれませんが、計画なので、要望という言葉を使えるか分かりませんが、お伝えしないとイケないと思います。懇談会で出た意見を前向き捉えて、当事者ができること、行政が出来ることを混合してやっ払いいかないといけないことがあると思うので、誰が見てもわかる言葉に表現していただけると市民の方がわかりやすくとらえられると思います。

(山下会長)

今回の会議で、出た意見としては移動の問題で、地域福祉活動計画としては市民がその地区でどのように考えていくかですが、その手前で交通機関等について不足しているご意見が出たので、移動の問題が地域福祉の課題だと明記すべきという意見がでました。もう一つが、子どもの関連でコミュニティスクールの設置に関連してスクールソーシャルワーカー、子ども視点と地域福祉の視点としてスクールソーシャルワーカーの配置という2点は明確に意見として出されていますので、議論の成果の一つだと思います。歯の事や健康のことは議論として出て

いなかったのですが、中澤委員ご意見ございますか。

(中澤委員)

今回は特になのですが、虐待のところ、学校の歯科検診をしたときにネグレクトかどうかはわかります。学校に相談すると先生からあやふやな回答をされてしまうので、行政、地域など一緒に関わられる仕組みをつくっていただきたいと思います。

(吉野委員)

子どもの貧困や虐待、養育困難が増えていて、児相が一時保護ですら、対応できない時があり、家庭に戻すこともあります。学校の先生は校外のことについては責任が持てないので、虐待を疑っていても確信をもって通報がしづらい状況です。

(粟根委員)

コミュニティバスの件で4年前に自治会連合会で要望を出して、運航ルートなどを出して提出しましたが、交通機関の競合や予算の関係で無理だと言われてしまいました。勝田台地区では市役所に行くバスもなく、東葉高速鉄道の料金も高いので、外出困難という話が出ました。地域懇談会の要望を踏まえて、行政が何をすべきか、まとめたいと思っています。

(山下会長)

ポストコロナ後の計画の見直しなので、虐待や生きづらさを考慮していく必要がありそうという意見が出ました。それぞれの団体から地域課題を出していただいて相乗効果が出れば良いと思います。皆様が出た意見を集約し、2月の報告までお待ちいただければと思います。最後にシンポジウムの件についてお願いします。

(槌田主事)

八千代市地域福祉シンポジウムに説明いたします。黄色いチラシと実地要領を見て頂いて、テーマについては人がつなぐ・居場所がつなぐとしていまして、八千代市における地域福祉活動の実践についてシンポジウムでお話をしていきたいと考えています。日時は令和6年1月20日、土曜日、10時から12時、先着400名で事前申込制です。基調講演は山下会長から地域の担い手を増やすには、地域の連携について講演予定です。パネルディスカッションでは八千代市における地域福祉活動、山下会長がコーディネーター、4名のパネリストの中で本計画にも携わっている中村明澄委員はご自身の担当している患者さんに対して社会福祉協議会に相談があり、インフォーマルな支援として、ボランティアの方が患者さんの支援にあたっています。弓削田キク子さんは社会福祉協議会支会の福祉委員を務めており、民生委員児童委員協議会の村上地区の会長であり、地域の担い手として活動しています。村上地区のほっこりむらかみという通いの場にも関わっています。小野美果さんは福祉出前講座サポーターで、車いすユーザーとして講師を務めています。支えられる側ではなく支え手として、活躍をされています。佐藤千尋さんは慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究学科の特任講師です。米本団地のほっこりを研究対象としており、アートと福祉をテーマにイベントを行っており、障害の方や居場所などのつながりを作った方です。お知り合いの方にお声掛けをお願い致します。

(山下会長)

この会議での議題や中間報告を織り込みながらお話させていただきました。その他、なにか

ありますか。

(小野主査)

子どものアンケートの件についてタブレットを用いてアンケートを取るという話もありましたが、八巻委員と社会福祉協議会と話し合いを行い、小中高の福祉教育の中でアンケートを取る予定で、今後も社会福祉協議会調整しています。今後は2月19日に協議会を開催する予定であり、アンケートの最終的な集計結果、前回調査の比較などを含めて報告予定ですので、よろしくお願いたします。

(中澤委員)

最後にNPO法人やちけあを市民に還元するためにやちけあフェスを1/8に中村委員が中心となって開催予定です。ご興味のある方はご参加して頂ければと思います。

(山下会長)

それでは以上をもちまして第2回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定推進協議会を閉会いたします。ありがとうございました。